

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【さいたま市立美園北小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。ドリルを購入している学年は活用し、購入していない学年は、ドリルパークや、それぞれのミニテストやプリント等個別に蓄積されたデータを効果的に活用していきたい。 また、主語と述語の関係を理解するため、各教科のふり返り等、様々な場面で主語と述語を意識した文章づくりをさせた。
思考・判断・表現	学校評価において、本校は宿題が多い、少ない、というそれぞれのご意見が保護者から寄せられた。宿題のあり方について、教職員、保護者、児童が共通理解ができるよう、学校として説明をすることで足並みをそろえ、知識・技能の定着と合わせて、自分たちで考え、判断し、学習をマネジメントする力を6年間の学校生活を通して育んでいくことに一層力を入れていく。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】自らの課題を認識・自己決定し、その解決に向けて工夫・努力して取り組む力を伸ばしたい。 【指導上の課題】児童が自らの学びを振り返る時間を確保することが難しい。	⇒ 購入している学年は「計算ドリル」「漢字ドリル」、タブレットが配備されている学年においては「ドリルパーク」や「スタディサプリ」、その他、学年やクラスで用意する「ミニプリント」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。【週1程度の実施】その際、児童が自ら学びをふり返り、課題を確認する時間を設定する。【月1程度の実施】
思考・判断・表現	【学習上の課題】学習に対して意欲的ではない場面がみられることもある。 【指導上の課題】子ども主体の学びとなるような授業を、より多く行いたい。	⇒ 少人数で話し合う活動や、デジタルツールを活用した他者との交流等を意識的に取り入れ、協動的な学びを通して主体的に考えたり、表現したりすることができるようにしていく。【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	週のうち月曜日と水曜日に「パワーアップタイム(PT)」を設け、「計算ドリル」「漢字ドリル」、タブレットが配備されている学年においては「ドリルパーク」や「スタディサプリ」、その他、学年やクラスで用意する「ミニプリント」等を活用して漢字や計算の習熟を図ることができた。 これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目では、R6年度さいたま市学習状況調査における肯定的な回答の割合は93%を超えた。
思考・判断・表現	A	授業改善策で示した内容から、R6年度さいたま市学習状況調査学校で、「学級の友達と意見を交換する場面で、P・C・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。」において、4年生以上の肯定的な回答が平均して71%以上、「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。」において68%以上と、いずれも高い数値になった。その結果、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が96%以上となった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では全国同様、日常的に使用する頻度が高いと思われる漢字、「投げる」の正答率は高かったが、「競技」の正答率は「投げる」の正答率より30%以上低かった。その中で、「競」と「技」のどちらかは書けている割合が多いので、漢字の反復練習だけでなく、様々な言葉に触れる機会を大事にしていきたい。
思考・判断・表現	算数では、全国同様、「家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く」問題で正答率が振るわなかった。誤答の多くを占めたのが、道のりが同じことを示すことまではできているが、二人の速さについての言葉や数を入れていないことであった。自分が考えていることを、条件に沿って、相手にわかりやすく丁寧に説明する活動を重視したい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	理科では「生命」を柱とする領域の平均正答率が低く、同領域の異集団比較において、昨年度の結果を5、6年ともに下回った。決して緑豊かとは言えない本校の環境下において、自然生命に興味を持たせる活動も重視したい。 国語では、複数の学年で、文の中の主語と述語の関係を理解することに課題が見られた。
思考・判断・表現	社会や算数では複数の学年において、グラフの読み取りに若干の課題が見られた。データの読み取りについてはグラフに限らず丁寧に扱うようにしたい。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	各学年、各クラスで児童が適宜習熟やふり返りを行う時間を確保することができた。	変更なし
思考・判断・表現	A	日常的にデジタルツールを活用しての交流を実践できている。機能が新しくなったオクリンクプラスや、スクールダッシュボードでのふり返りを2学期から活用していく予定である。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)